

お茶の実オイルで新製品開発

[背景・目的]

耕作放棄地は県内で12,494haあり、その50%の約6,000haが元茶園と推定されます。沼津市原地区では、この対策として数年前から遊休茶園を活用したお茶の実の収穫と搾油に取り組んでおり、試験搾油には成功しましたが有用成分の組成比の把握や商品化が課題となっていました。そこで当所と共同で、お茶の実に含まれる油分（お茶の実オイル）の成分分析や、他の植物油と比較して優れた特性があるかを明らかにするなど、商品化に取り組みました。

茶の実の栽培管理や搾油の効率化の検討、お茶の実オイルの成分的な特徴の解明により、付加価値の高いお茶の実オイル商品の開発を目指しています。

[これまでに得られた成果]

- ・殻割りや殻の除去等の前処理により、10～30分間隔でのバッチ処理によるオイル回収量を2.5倍に、90分連続搾油での搾油率を10%から12%に向上させました。
- ・成分の特徴として、不飽和脂肪酸（オレイン酸など）の組成比が80%以上、ビタミンEは100g中34.6mgとオリーブ油の約5倍であることが分かりました（図）。
- ・お茶の実オイルを利用した新たな商品として、地元の「あしたか茶」のオイルを配合した化粧品（練り香水「富士実香^{ふじみこう}」）（写真）を商品化しました。

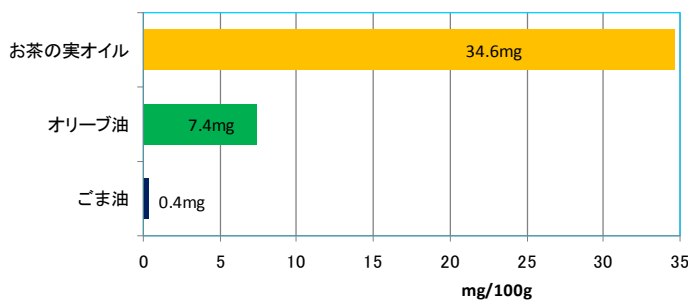


図 ビタミンE含有量の比較



写真 練り香水「富士実香」

[期待される効果・技術移転の計画]

- ・練り香水「富士実香」が、沼津市商工会会員や新東名駿河湾沼津SAなど14店舗とインターネット上のショッピングサイトなどで平成26年12月から販売中です。
- ・研究所には県内外の茶産地から同様の相談が複数寄せられており、技術相談等の支援業務に取り組んでいます。
- ・沼津市商工会では連携の成果を基に、地元の特産品を応用した第2、第3の製品開発も計画しており、さらなるビジネス化が期待されます。